



愛川ふれあいの村 12月の風景

平成23年 12月 自然のたより

一年の最後の月になりました。きれいに紅葉していた木々は葉を落とし、植物の様々な冬支度「葉痕」が見られます。かわせみ棟前の池は凍り始めて、朝方には霜が降りて、村内は真っ白になります。

利用者が少なく静かな村内では、鳥たちは自由に飛び回り、夜にはシカやイノシシ、ムササビが訪れています。

<12月の自然のエピソード>

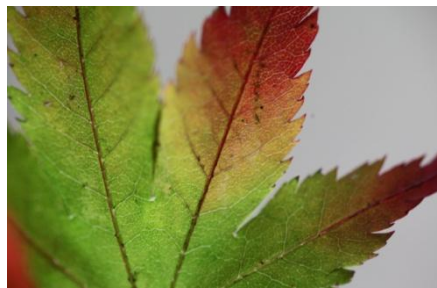
冬枯れの中でも新しい年に向かって、色々な表情をした冬芽を見ることができます。

春までじっと我慢の季節を、“もうなれたものさ”と笑って過ごす者や、呆然と口を開けて待っている者もいるみたいです。

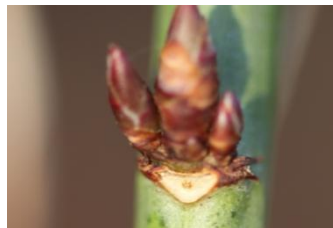
村の中心あたりに位置する野草園では、枯れた茎の根本に「氷の結晶」をつけ、冬に花を咲かせたように見える『シモバシラ』や、揺らすと種子が雪のように舞い落ちる『ウバユリ』の姿を見ることができます。



シモバシラの『冬の花』



モミジのグラデーション



ヤマブキの葉痕



フジの葉痕



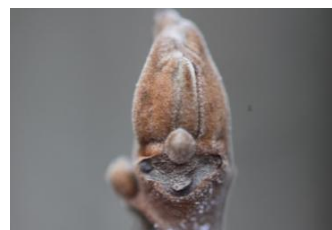
アセビ



シダレザクラ



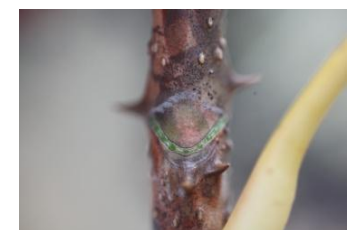
死の糸が付いているトクサキ



オニグルミの葉痕



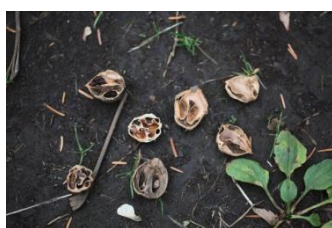
ハクモクレンの葉痕



ハリギリの葉痕



ハラビロカマキリ



リスが食べたオニグルミ



モミジの葉脈



霜柱